

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成20年7月17日 (2008.7.17)

【公開番号】特開2007-64987(P2007-64987A)

【公開日】平成19年3月15日 (2007.3.15)

【年通号数】公開・登録公報2007-010

【出願番号】特願2006-242365(P2006-242365)

【国際特許分類】

G 0 1 N 33/53 (2006.01)

C 1 2 Q 1/02 (2006.01)

C 1 2 N 5/06 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 1/18 (2006.01)

G 0 1 N 33/566 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 33/53 Z N A D

C 1 2 Q 1/02

C 1 2 N 5/00 E

A 6 1 K 48/00

A 6 1 K 37/02

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 1/18

G 0 1 N 33/566

G 0 1 N 33/53 P

C 1 2 N 15/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成20年5月30日 (2008.5.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

IL-22Rポリペプチド又はIL-10R ポリペプチドを含有すると思われる試料中でのIL-22Rポリペプチド又はIL-10R ポリペプチドを検出する方法であって、前記試料をIL-22ポリペプチドと接触させ、前記試料中でのIL-22R/IL-22ポリペプチドコンジュゲート又はIL-10R /IL-22ポリペプチドコンジュゲートの形成を確かめることを含んでなる、前記コンジュゲートの形成が前記試料中でのIL-22Rポリペプチド又はIL-10R ポリペプチドの存在を示す、前記方法。

【請求項 2】

前記試料がIL-22Rポリペプチド又はIL-10R ポリペプチドを発現すると思われる細胞を含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記IL-22ポリペプチドが検出可能な標識で標識されるか、又は固体支持体に付着し

ている、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

生物活性分子を I L - 2 2 R ポリペプチド又は I L - 1 0 R ポリペプチドを発現する細胞と結合させる方法であって、前記細胞を前記生物活性分子と結合している I L - 2 2 ポリペプチドと接触させ、前記 I L - 2 2 ポリペプチドと前記 I L - 2 2 R、又は前記 I L - 2 2 ポリペプチドと前記 I L - 1 0 R ポリペプチドの結合を可能にすることを含んでなり、それによって前記生物活性分子と前記細胞を結合させる前記方法。

【請求項 5】

前記生物活性分子が毒素、放射標識又は抗体である、請求項 4 に記載の方法。

【請求項 6】

前記生物活性分子が前記細胞の死を引き起こす、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 7】

I L - 2 2 R ポリペプチド又は I L - 1 0 R ポリペプチドを発現する細胞の少なくとも 1 つの生物学的活性を調節する方法であって、前記細胞を (a) I L - 2 2 ポリペプチド、 (b) 抗 - I L - 2 2 R ポリペプチド抗体又は (c) 抗 - I L - 1 0 R ポリペプチド抗体と接触させることを含み、前記 (a) I L - 2 2 ポリペプチド、 (b) 抗 - I L - 2 2 R ポリペプチド抗体又は (c) 抗 - I L - 1 0 R ポリペプチド抗体を前記 I L - 2 2 R ポリペプチド又は I L - 1 0 R ポリペプチドと結合させることにより、前記細胞の少なくとも 1 つの生物活性を調節する方法。

【請求項 8】

前記細胞が死滅する、請求項 7 に記載の方法。